

寅さんと「納豆オムレツ」

写真は朝日新聞 6 月 9 日夕刊 1 面である。リードから一映画「男はつらいよ」シリーズで、「フーテンの寅さん」を演じた俳優の渥美清さんが亡くなって、8 月で 20 年になる。これを記念する映画上映会が 11 日に始まる。「寅さん」以外の作品を集めた企画だ。愛され続ける「昭和の名優」の多彩な姿が、いま一度輝く。

記事を読む前から、今年 8 月 4 日は「寅さん」こと、渥美清さんが亡くなって 20 年になるんだと考えていた。あのとき、名古屋市立女子短大の研究室で渥美さん死を知って、なんとも言えないショックを受けたことを、今でも鮮明に覚えている。あれから 20 年。「寅さん」映画のテレビ再放送を何度も見てきたので、渥美さんがまだ身近にいるような感じがする。この記事を読み、初めて知ったことがあった。

柴又駅前の居酒屋「春」。お酒は飲まない渥美さんが撮影の合間に 1 人でよく立ち寄った店だ。カウンターでお茶をすすり、好物の納豆オムレツをつまみながらくつろいだ。おかみさんの渡辺かおるさん（62）が立ち働く 8 席のカウンターは、常連客でいつもにぎやか。

格子じまの背広にダボシャツと寅さんスタイルで柴又のボランティアガイドをする野口陽一さん（66）も「ヨッ！ 元気かい」と笑顔で入ってくる。ガイドを始めたのは、渥美さんが亡くなった 96 年からだ。「田舎のおばあちゃんが、僕の手を握って『やっぱり寅さんがいた。ありがとう』って離さないんだよ」

渥美さんが「納豆オムレツ」が好物だと初めて知った。じつは、この私も大好物なのだ。2008 年 2 月 28 日に、納豆に「なっと」くするとレポートしている。たまたま小泉武夫『納豆の快樂』という本に触発されて書いたものだ。「読んで納豆食う＝納得の食エッセイ」など、示唆に富むことが多かった。でも、「小泉流納豆怪食法」レシピ 22 のなかに、わが「納豆オムレツ」が入っていなかった。当時、納豆は「すてき」を文字って「納豆ステーキ」と呼んでいた。

今回、渥美さんが「納豆オムレツ」が好物だったと知り、本当に嬉しくなった。私の数少ない料理が、この「納豆オムレツ」である。毎朝欠かさず、納豆を卵とかき混ぜて、フライパンで焼く。混ぜ方と火加減により、いつも出来上がりが違う。

まだまだ「なっとく」できない。今朝もこれから「納豆オムレツ」に挑戦だ。



(2016年6月19日)